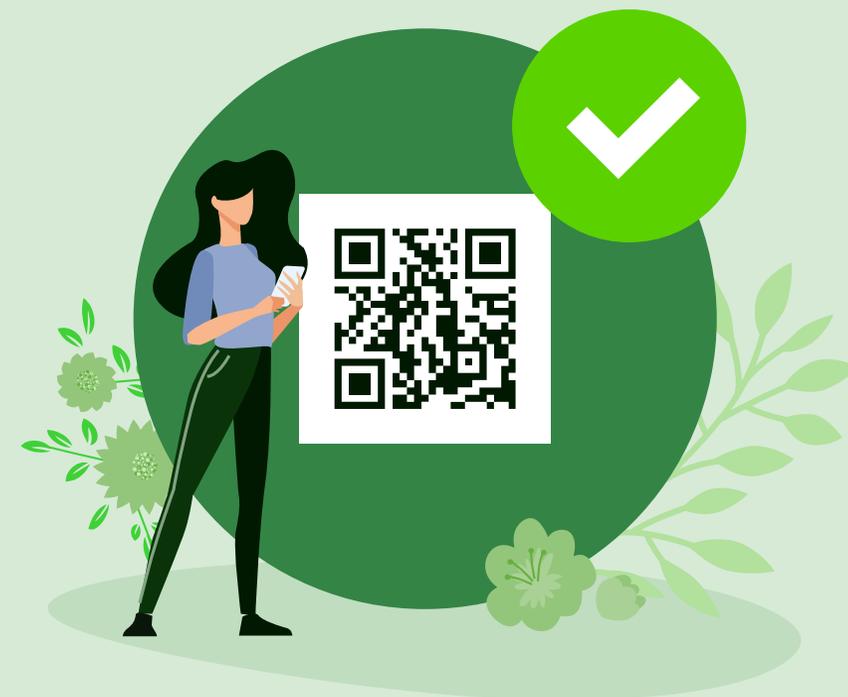


# QRコードを活用して 物品を管理する メリット・デメリット



DX推進への関心が高まるなかで、オフィスの備品管理、店舗・倉庫の在庫管理、メーカーの資材管理など、さまざまな場面でQRコードが使われるようになってきました。

特に近年では、**スマートフォンのアプリ**を使用することでQRコードによる管理を業務に取り入れやすくなり、非常に身近なツールになっています。

しかし、ただ単にQRコード管理を導入するだけでは業務効率化にはつながりません。業務改善・業務効率化を図るためには、**QRコード管理のメリット・デメリットを理解し、運用方法を事前に検討する必要があります。**

そこで本資料では、QRコードを用いた物品管理システムの導入のメリット・デメリットをご紹介します。

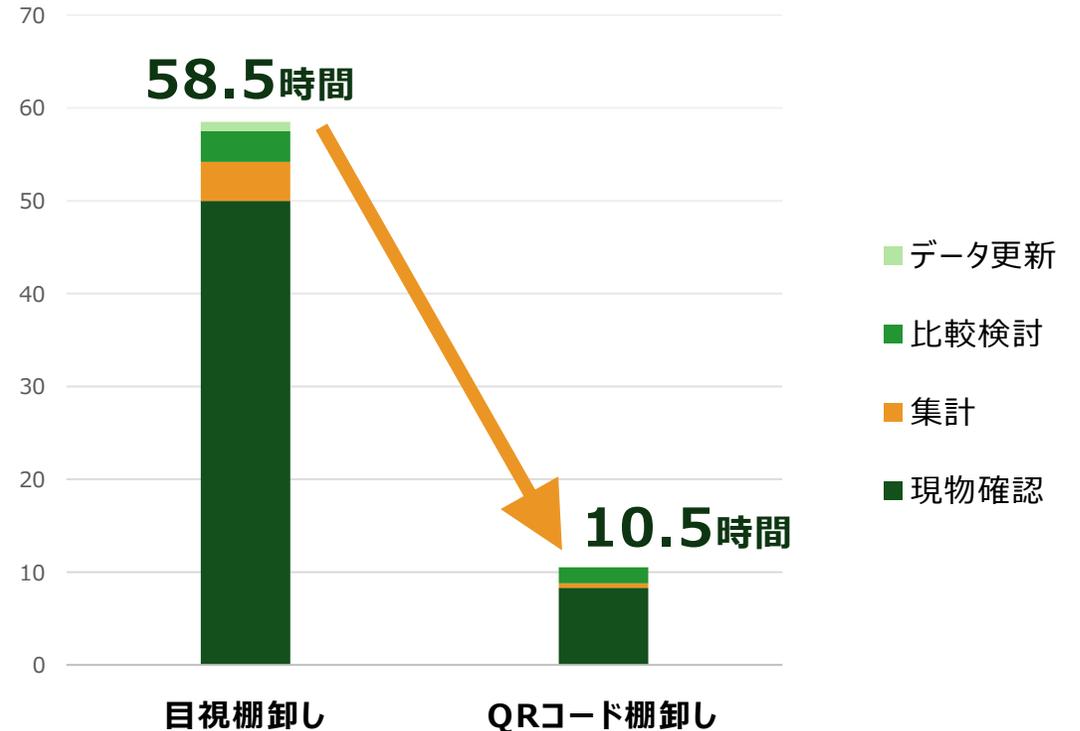
# 82.1%

この数字は、「目視による棚卸し」を「QRコードを用いた棚卸し」に変えた際の「**棚卸しの工数削減率\***」を示しています。

では、なぜこれほど大きな工数削減が可能なのでしょう。

その理由は、**従来手作業で行っていた工程を大幅に自動化できるため**です。目視で行っていた「**現物確認**」は**QRコードのスクリーンに置き換えられ**、スキャン結果を活用して「**集計**」や「**データ更新**」といった作業も、**システムによる自動突合・自動更新**により処理されます。

このように、**人手による作業をシステムに置き換えることで、大幅な工数削減を実現できる**のです。



※物品管理システム「Convi.BASE」を使用した棚卸しシミュレーション

【前提条件】棚卸し対象点数:1,000点、保管場所:3箇所(保管場所単位で棚卸し)、物品移動率:10%(100点)

# <参考> 物品管理システム「Convi.BASE(コンビベース)」を使用した棚卸しシミュレーション

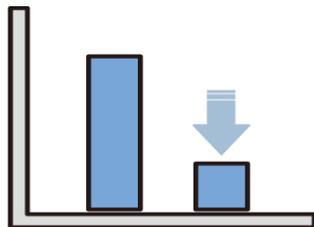
	目視棚卸し (延べ58.5時間)	QRコード棚卸し (延べ10.5時間)
現物確認	台帳内容の確認、現物照合および結果の記入 <b>3分×1,000点 = 3,000分</b> (50時間)	QRコード管理ラベルの読取り <b>0.5分×1,000点 = 500分</b> (8.3時間)
集計	台帳記入の結果をExcel入力(物品の有無) <b>0.25分(15秒)×1,000点 = 250分</b> (4.2時間)	読取り結果のデータ送信・確認 <b>10分×3箇所 = 30分</b> (0.5時間)
比較・検討	台帳記入の差異(移動)をExcel上で確認 <b>2分×100点 = 200分</b> (3.3時間)	集計画面で差異(移動)表示された情報を確認、 棚卸し結果の受け入れ可否を判断 <b>1分×100点 = 100分</b> (1.7時間)
データ更新	棚卸し結果に応じてExcel情報を更新 <b>0.5分(30秒)×100点 = 50分</b> (1時間)	棚卸し結果に応じて台帳情報が自動更新(移動履歴も自動保存) <b>5分</b> (0時間)

※【前提条件】棚卸し対象点数:1,000点、保管場所:3箇所(保管場所単位で棚卸し)、物品移動率:10%(100点)

# QRコードで物品を管理する“メリット”

QRコードを活用して物品管理することで、次のようなメリットがあります。

## 作業工数を削減できる



これまで目視や手入力で行われていた作業が、QRコード読み取り、システムでの突合・自動集計に変わるため、**作業工数を削減**することができます。

作業を行う人員を削減できるため、**コスト削減**や**生産性の向上**にも期待できます。

## ヒューマンエラーを減らせる



目視・手作業では、チェックミス・チェック漏れ・転記ミスなどが起こりえます。QRコード管理であれば読み取るだけなので、**ヒューマンエラーを減らす**ことができます。

**誰が作業しても同じ結果**を得られるのもメリットです。

## リアルタイムに情報を把握できる



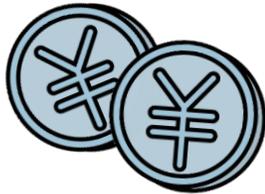
貸出し管理や在庫管理などでは、リアルタイムに情報を把握したいケースもあるでしょう。

QRコードを活用すれば、QRコードで読み取った情報が**すぐにシステムに記録**されるため、在庫数や物品のステータス等を**即座に把握**できるようになります。

# QRコードで物品を管理する“デメリット”

しかし、QRコードの活用はメリットだけではありません。3つのデメリットと、次のページではその解決方法をご紹介します。

## コストがかかる



QRコード管理を行うためには、ハンディターミナルやスマートフォンなどの**読み取り機器**と、**QRコード管理に対応した物品管理システム**が必要となります。

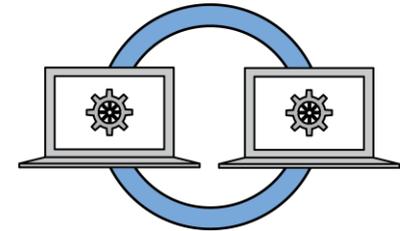
## システム導入・運用体制の構築に時間がかかる



システムを効果的に活用するためには、事前に業務フローを作成し、社員に対して使い方を周知させる必要があります。

こうした**運用体制の構築には一定の時間がかかる**ため、直近の作業に間に合わなかったり、システムの効果が十分に得られなかったりする可能性があります。

## データ連携がうまくいかず二重管理になる



会社内ではさまざまなシステムが導入されているはずですが、

既存のデータと物品管理システムとの連携方法を決めておかなければ、**データの二重管理が発生**してしまいます。

# QRコード管理のデメリットの解決方法①

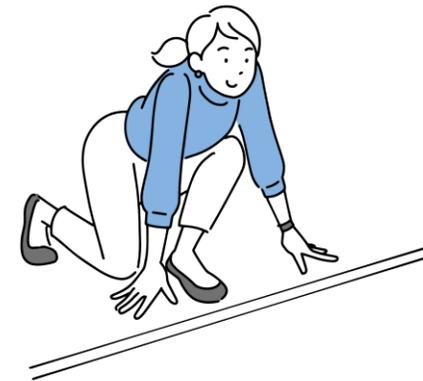
コストがかかる



管理対象を絞ってスモールスタートする

システム導入の際には管理対象・組織を絞って「スモールスタート」しましょう。一度にすべての管理業務をQRコード管理に変えようとする、システムの導入費用が大きくなってしまいます。

まずは必要最低限の範囲でQRコード管理をスタートし、運用が軌道に乗ったら管理対象や利用組織を広げていきましょう。



## QRコード管理のデメリットの解決方法②

システム導入・運用体制の構築に時間がかかる



時間に余裕を持ったシステム導入を行う

運用体制の構築には一定の時間がかかることを念頭に置き、余裕を持ったシステム導入を行いましょう。業務フローや運用マニュアルなどの作成を、外部に依頼(アウトソーシング)してしまうのも一つの手です。



データ連携がうまくいかず二重管理になる



担当者に連携の有無、連携方法、タイミングなどを事前確認する

社内の既存システムとの連携有無を事前に確認しましょう。

どのシステムとデータ連携が必要なのか、連携方法(データ形式・手動/自動)、誰がいつデータ連携を行うのか、などの情報を整理しておきましょう。

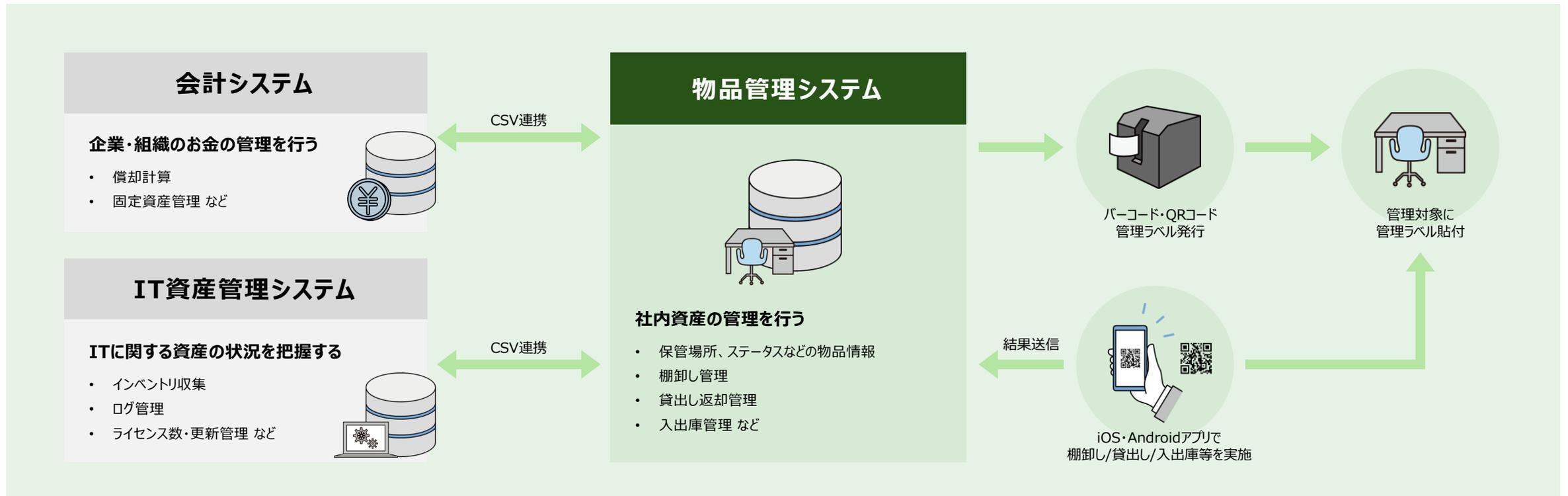


# QRコード管理で効果が出やすい「物品管理システム」とは？

「物品管理システム」は現物の所在や状態を把握するためのツールです。

たとえばパソコンを物品管理システムで管理する場合、設置場所・管理部署・管理者・棚卸し・貸出し返却などの情報を登録できます。

会計システムやIT資産管理システムなど社内の他システムとデータ連携すれば、二重管理を防ぎながら効率の良い管理が可能になります。



# 「物品管理システム」はどのような業務に活用できる？

弊社が開発・提供する、物品管理システム「Convi.BASE(コンビベース)」では固定資産の棚卸し、IT機器の貸出し管理、重要文書の期限管理など、さまざまな業務に活用できます。

1

固定資産・備品

×

資産棚卸し



2

リース資産

×

リース期限管理



3

重要文書・文書箱

×

契約・廃棄期限管理



4

IT資産

×

貸出し返却



5

工具

×

点検管理



6

計測器

×

校正管理



7

店舗什器・厨房機器

×

移動管理



8

在庫・消耗品

×

入在庫・数量棚卸し



9

防災備蓄品

×

消費期限管理



# <参考> QRコード管理を導入しやすい業務は？

物品管理システムのほかにも、QRコード管理を導入することでさまざまな業務の効率化を図ることができます。

1. 固定資産管理	管理システム例
<ul style="list-style-type: none"><li>固定資産の棚卸し</li><li>貸出し・返却管理</li><li>修理・廃棄管理 など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>固定資産管理システム</li><li>物品管理システム</li><li>IT資産管理システム</li></ul> 

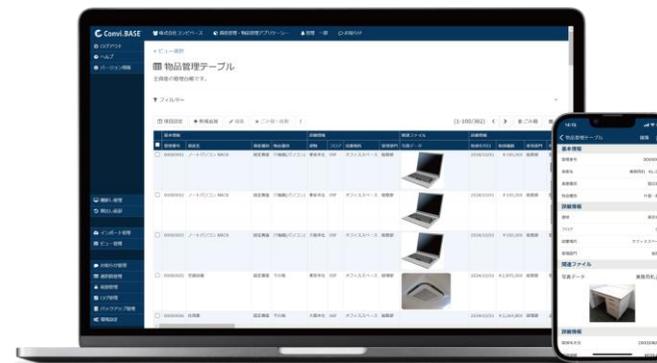
2. 重要文書管理	管理システム例
<ul style="list-style-type: none"><li>文書の持出し管理</li><li>契約期限・廃棄期限管理</li><li>所在管理 など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>物品管理システム</li><li>契約書管理システム</li><li>文書管理システム</li></ul> 

3. 生産管理	管理システム例
<ul style="list-style-type: none"><li>工程管理</li><li>在庫管理</li><li>販売管理 など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>生産管理システム</li><li>原価管理システム</li><li>工程管理システム</li></ul> 

4. 商品管理	管理システム例
<ul style="list-style-type: none"><li>店舗商品の棚卸し</li><li>入出荷</li><li>販売・売上管理 など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>在庫管理システム</li><li>販売管理システム</li><li>倉庫管理システム</li></ul> 

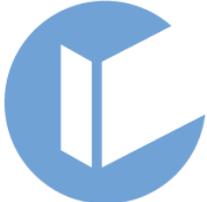
物品管理クラウドサービス「コンビベース」の資料のご案内のほか、  
資産調査・ラベル発行・棚卸し代行などのアウトソーシングサービス、  
運用マニュアル作成・業務フロー策定などのコンサルティングサービス  
についてもお気軽にご相談いただけます。

「こんな運用できる？」など、物品管理システムに興味をお持ちの  
方は、お気軽にお問合せください！



## 資料を請求する / オンライン無料デモに申し込む

- ✓ 何ができるのか概要を聞きたい
- ✓ 機能や費用について質問したい
- ✓ 自社の運用に合うか確認したい
- ✓ 導入事例・運用事例を聞きたい
- ✓ 物品管理の始め方を相談したい
- ✓ ラベル発行・貼付代行について聞きたい



# Convi.BASE

お問い合わせ

株式会社コンビベース  
営業部 マーケティンググループ



03-5643-6743



cb-info@convibase.co.jp